

# 母校文化祭(116回)「南魂祭」に行きました

母校の文化祭「南魂祭」が、9月7日～8日に開催されました。コロナ禍後の生徒のみの開催を経て、昨年からは一般人への開放するお祭りとなりました。



9月7日、入沢副会長と庶務の溝口が文化祭に訪れました。屋上からのクラスの垂れ幕が飾られ、9時40分の開場前には数多くの観客が並び、入校を待っています。



まず、10時過ぎからの「なんふいる・わあるど」を聴くため、体育館に向かいます。体育館は冷房が効くのですが、4～500人の観客入場で暑



さムンムンです。ヨハン・シュトラウスのポルカ「雷鳴と電光」のほかリトルマーメイド・メドレーなど4曲の演奏が、約100名の団員によって力強く演奏されました。

その後、あかね会新入会員の9期生によるランチルームの「あかね屋」を訪れました。あかね屋は、お弁当、おにぎり、飲料水を販売し、南魂祭の裏方として活躍していましたが、9期生の37名が交替しながら2日間の文化祭を支えています。代表の前田さんにお聞きす



ると、「猛暑続きの中で、三ツ矢サイダーが売れに売れています」とのことでした。なお、ランチルームでは、あかね屋のほか、4年生の各クラス、SDGsのグループ、購買担当が出店していました。

昨年は8期生の準備が間に合わなくて、あかね屋の運営は見送りましたが、今年は6月頃から学校との打ち合わせを十分に行って、開催にこぎつけました。ポスターを作成するほどの熱心さで、準備を進めました。



その後、桂優子副校長や宮嶋淳一校長先生に挨拶しました。校長先生は「今年は暑くて人出が多いので、大変です」などのお話をお聞きしました。

以前は、毎日、体育館で南多摩フィルと太鼓部の演奏がありましたが、南フィル1日目、太鼓部は2日目、演劇部も2日目となりました。逆に、6年生のクラス発表が体育館で行われるなど、演目が変わってきました。

その後、中庭でのライブ公演(3団体)を聴いて、生徒の頑張っている姿に感慨を覚えました。

特別教室では、美術や書道の発表や、地学室ではらくりわーどという発表がありました。12時には学校見学を終えました。

